

主張

このところ、1つの過ちや発言をめぐる、個人や組織が糾弾される事態が相次いでいる。また、テレビでもキャスターが、今の時代は、「不寛容の時代である」と指摘をしていた。

アメリカ大統領選挙におけるトランプ現象やイギリスのEUからの離脱の要因等世界的にも難民や移民を排斥する流れがある。また日本においても中国や韓国に対する反中国・韓国ではなく嫌中国・韓国という本や言葉が本屋やネット上で多く見られる。

自分の意見と異なる意見を持つ人を徹底的に攻撃・蔑視する風潮がみられる。それを好むのは、人間の奥底に潜む業なのかもしれない。このような時代背景を「不寛容の時代」というのかもしれない。

私は、今回の鹿児島市議会議員選挙でも問われたが、「好きな作家は、誰れですか」との問いに「渡辺一夫」と答えている。渡辺一夫は、東京大学で仏文学の研究をしながら翻訳・評論・作家活動をした人で、作家の大江健三郎の師でもある。

40年程前に購入した渡辺一夫全集の中に「愚感集」という評論・エッセイを綴った数冊があるが、その中に「寛容は自らを守るために不寛容に対し不寛容になるべきか」という一文がある。私は、人との対応で行き詰った時にこの文章を読み返す事になっている。

広辞苑によると「寛容」とは「寛大で、よく人をゆるし受け入れること。とがめだてしないこと」また「異端的な少数意見発表の自由を認め、そうした意見の人を差別待遇しないこと」とある。

地方議会の場に僅かではあるが20年席を置きその変遷をソフトの面からみても「寛容さが、なくなった」と感じる。人はどのような考えや思想を持とうが構わない。しかし自分と違う意見や考えの人を、揶揄したり嘲弄したりしてはいけない。その延長線上に攻撃がある。

渡辺一夫は、「不寛容に報いるに不寛容を以てする事は、寛容の自殺であり、不寛容を肥大化させるにすぎない」とし、「不寛容に対しても寛容であるべき」と言っている。

私たちの日々の生活の場である職場や地域社会の中で「寛容さ」を大切に生きていきたい。



身近な市民相談は
社民・市民フォーラム市議団へ
電話：099-216-1438

- 森山 きよみ (6期 花野)
市議団団長
市民・健康福祉委員会委員
決算特別委員会委員
地方創生に関する調査特別委員会委員
- 団員 秋広 正健
- 団員 ふじくぼ 博文
- 団員 大森 忍
- 団員 中原 力
- 団員 平山 タカヒサ
- 控室 吉田 詠弓



いつでもどうぞ
市民相談所
森山 きよみ

〒891-1204 鹿児島市花野光ヶ丘二丁目1-13
TEL・FAX (099) 228-1404
携帯 090-1084-3334
メールアドレス moriyama-k@kagoshimashigikai.com



市政報告

10月
議会号

№43

〒892-8677
鹿児島市山下町11-1
鹿児島市議会社民・市民フォーラム控室
電話:099-216-1438
FAX:099-226-1019

2016年第3回九月定例会市議会は、9月6日森市長から議案提案理由の説明を受け、会期28日間で10月3日に閉会しました。

今回の定例会は、先に行われた鹿児島県知事選挙の結果を受けて、三反園新知事が選挙期間中に県民・市民に対して約束した所謂マニフェストについて、その内容や鹿児島市との関係等についての質疑が多くかわされました。

私たちの会派も代表質疑において森市長の政治姿勢を基本に市政の諸課題について市当局を質してきました。以下はその概要です。



質問中の森山きよみ

質問 森市長の3期目のマニフェストの中で実現していないのは、市電の延伸であるが、この課題は、新知事も前向きなことから可能な限り早急に実施するべきと考えるがどうか。

市長 マニフェストに掲げて今まで取り組んできた。今後本港区における県の施設整備の方針が明確になった時点で、ルートの選定などの基本計画の策定に着手したい。

県市意見交換会において、県市ともに前向きに対応することで一致したところであり、県との連携をより一層深めながら、早期の実現に向けて全力で取り組んでまいりたい。

質問 子ども医療費の現物支給については、これも新知事も前向きなことから早期に協議し実施するべきではないか。

市長 これまでも、より利便性の高い現物給付方式を導入するよう県に対して要請してきたが、今後県から具体的な内容が示されるものと考えているので県の動向を注視していきたい。

*子ども医療費問題 現物支給と償還払いとは
現物支給 医療機関の窓口で負担なしで医療が受けられる方式
償還払い 医療機関の窓口で一部負担を支払った上で市町村に申請し、概ね二か月後に支払った医療費の還付を受ける方式
子どもを持つ親としては、現物支給方式を望む声が多い。しかし、今まで鹿児島県は、現物支給をすると医療費が増加し、国からのペナルティがある等の理由で現物支給には消極的だった。ここにきて国においても審議会等で現物支給容認の動きが出てきている。

質問 森市長は、先の知事選挙で伊藤前知事を応援されたが、その理由と森市長自身の多選批判について。

市長 私自身、それまでの県政を評価していたこと、また私が代表を務める市長懇談会等でも伊藤候補を推薦してきた事等を総合的に考え支援させていただいた。

結果については、有権者の皆さんが、県政の舵取り役としてどちらがふさわしいか総合的に判断された結果であろうと受け止めている。

一般的に首長の多選に対し批判があることは私も承知しているが、市政に尽くしてまいりたいという、市長を志した原点に立ち返り、その気持ちを大切に望んできている。今回も改めて、その意を強くしているところである。

質問 家庭ごみの減量化・資源化に関して新たな目標値は。

局長 今回「一人一日当たりのごみの排出量を470グラム」という目標を設定した。

質問 ごみ袋の有料化はしないと理解してよいか。

局長 今後、本年10月から開催する住民説明会や市の新たな施策による効果が判明する二年後に検証をおこない、その状況を踏まえ最終的な目標年度を設定することとしており、まずは有料化以外の施策によるごみの減量化・資源化に努めていきたい。

主張

このところ、1つの過ちや発言をめぐる、個人や組織が糾弾される事態が相次いでいる。また、テレビでもキャスターが、今の時代は、「不寛容の時代である」と指摘をしていた。

アメリカ大統領選挙におけるトランプ現象やイギリスのEUからの離脱の要因等世界的にも難民や移民を排斥する流れがある。また日本においても中国や韓国に対する反中国・韓国ではなく嫌中国・韓国という本や言葉が本屋やネット上で多く見られる。

自分の意見と異なる意見を持つ人を徹底的に攻撃・蔑視する風潮がみられる。それを好むのは、人間の奥底に潜む業なのかもしれない。このような時代背景を「不寛容の時代」というのかもしれない。

私は、今回の鹿児島市議会議員選挙でも問われたが、「好きな作家は、誰れですか」との問いに「渡辺一夫」と答えている。渡辺一夫は、東京大学で仏文学の研究をしながら翻訳・評論・作家活動をした人で、作家の大江健三郎の師でもある。

40年程前に購入した渡辺一夫全集の中に「愚感集」という評論・エッセイを綴った数冊があるが、その中に「寛容は自らを守るために不寛容に対し不寛容になるべきか」という一文がある。私は、人との対応で行き詰った時にこの文章を読み返す事になっている。

広辞苑によると「寛容」とは「寛大で、よく人をゆるし受け入れること。とがめだてしないこと」また「異端的な少数意見発表の自由を認め、そうした意見の人を差別待遇しないこと」とある。

地方議会の場に僅かではあるが20年席を置きその変遷をソフトの面からみても「寛容さが、なくなった」と感じる。人はどのような考えや思想を持とうが構わない。しかし自分と違う意見や考えの人を、揶揄したり嘲弄したりしてはいけない。その延長線上に攻撃がある。

渡辺一夫は、「不寛容に報いるに不寛容を以てする事は、寛容の自殺であり、不寛容を肥大化させるにすぎない」とし、「不寛容に対しても寛容であるべき」と言っている。

私たちの日々の生活の場である職場や地域社会の中で「寛容さ」を大切に生きていきたい。



身近な市民相談は
社民・市民フォーラム市議団へ
電話：099-216-1438

- 森山 きよみ (6期 花野)
市議団団長
市民・健康福祉委員会委員
決算特別委員会委員
地方創生に関する調査特別委員会委員
- 団員 秋広 正健
- 団員 ふじくぼ 博文
- 団員 大森 忍
- 団員 中原 力
- 団員 平山 タカヒサ
- 控室 吉田 詠弓



いつでもどうぞ
市民相談所
森山 きよみ

〒891-1204 鹿児島市花野光ヶ丘二丁目1-13
TEL・FAX (099) 228-1404
携帯 090-1084-3334
メールアドレス moriyama-k@kagoshimashigikai.com



市政報告

10月
議会号
No.43

〒892-8677
鹿児島市山下町11-1
鹿児島市議会社民・市民フォーラム控室
電話:099-216-1438
FAX:099-226-1019

2016年第3回九月定例会市議会は、9月6日森市長から議案提案理由の説明を受け、会期28日間で10月3日に閉会しました。

今回の定例会は、先に行われた鹿児島県知事選挙の結果を受けて、三反園新知事が選挙期間中に県民・市民に対して約束した所謂マニフェストについて、その内容や鹿児島市との関係等についての質疑が多くかわされました。

私たちの会派も代表質疑において森市長の政治姿勢を基本に市政の諸課題について市当局を質してきました。以下はその概要です。



質問中の森山きよみ

質問 森市長の3期目のマニフェストの中で実現していないのは、市電の延伸であるが、この課題は、新知事も前向きなことから可能な限り早急に実施するべきと考えるがどうか。

市長 マニフェストに掲げて今まで取り組んできた。今後本港区における県の施設整備の方針が明確になった時点で、ルートの選定などの基本計画の策定に着手したい。

県市意見交換会において、県市ともに前向きに対応することで一致したところであり、県との連携をより一層深めながら、早期の実現に向けて全力で取り組んでまいりたい。

質問 子ども医療費の現物支給については、これも新知事も前向きなことから早期に協議し実施するべきではないか。

市長 これまでも、より利便性の高い現物給付方式を導入するよう県に対して要請してきたが、今後県から具体的な内容が示されるものと考えているので県の動向を注視していきたい。

*子ども医療費問題 現物支給と償還払いとは
現物支給 医療機関の窓口で負担なしで医療が受けられる方式
償還払い 医療機関の窓口で一部負担を支払った上で市町村に申請し、概ね二か月後に支払った医療費の還付を受ける方式
子どもを持つ親としては、現物支給方式を望む声が多い。しかし、今まで鹿児島県は、現物支給をすると医療費が増加し、国からのペナルティがある等の理由で現物支給には消極的だった。ここにきて国においても審議会等で現物支給容認の動きが出てきている。

質問 森市長は、先の知事選挙で伊藤前知事を応援されたが、その理由と森市長自身の多選批判について。

市長 私自身、それまでの県政を評価していたこと、また私が代表を務める市長懇談会等でも伊藤候補を推薦してきた事等を総合的に考え支援させていただいた。

結果については、有権者の皆さんが、県政の舵取り役としてどちらがふさわしいか総合的に判断された結果であろうと受け止めている。

一般的に首長の多選に対し批判があることは私も承知しているが、市政に尽くしてまいりたいという、市長を志した原点に立ち返り、その気持ちを大切に望んできている。今回も改めて、その意を強くしているところである。

質問 家庭ごみの減量化・資源化に関して新たな目標値は。

局長 今回「一人一日当たりのごみの排出量を470グラム」という目標を設定した。

質問 ごみ袋の有料化はしないと理解してよいか。

局長 今後、本年10月から開催する住民説明会や市の新たな施策による効果が判明する二年後に検証をおこない、その状況を踏まえ最終的な目標年度を設定することとしており、まずは有料化以外の施策によるごみの減量化・資源化に努めていきたい。